# 令和　4　年度　特例の教育課程の実施状況などについて

## 1. 学校・市町村概要　名護小学校

・教育目標:　未来を拓くたくましい子の育成　1　考えをつくりだす子（創造性）　2　心をみがく子（感性）　3　体をきたえる子

・所在地　沖縄県　名護市　大西2－2－22

・児童数（　R5.3.15　時点）

| | 小学校 | | | | | | | | 中学校 | | | | | 小中計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学年 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 特別支援学級 | 計 | 7 | 8 | 9 | 特別支援学級 | 計 | |
| 児童生徒 | 124 | 166 | 162 | 141 | 147 | 145 | 43 | 835 | | | | | | |
| 学級数 | 4 | 5 | 5 | 4 | 4 | 4 | 8 | 34 | | | | | | |

〇名護市概要【人口】63,389人【学校数】小学校11校、中学校6校、小中一貫校2校

## 2. 教育課程特例について

●歌や遊びなどの活動を通して、英語特有の発音やリズムに慣れる。

●間違いを恐れず、英語発音を真似し、進んで発話する。

## 3. 教育課程特例の取り組み・概要

### 取り組み内容

●帯活動に始まって、本時のめあて、振り返りまでの流れを毎回繰り返し、目的と見通しを持たせて進めた。

●ゲームを取り入れた活動を通して「めあて」を達成できるようにした。

●JTEと担任のティームティーチングで安心感を与え、わかりやすく活動することができた。

●最後の振り返りを日本語で行うことで本時のめあてへの理解を助けることが出来た。

●生徒数の多さを活かし、英語でのあいさつなどの活動でコミュニケーションの素地を養った。

●クラス全体→ペア→個人の流れで会話の活動をすることを引き続き意識した。

●自分の名前や好きなものなど、自分について英語を使って会話することを意識して帯活動に取り入れた。

## 4・取組の工夫：教科等の系統性・連続性を踏まえた学習指導【系統図や指導計画の作成

●生徒数の多さを活かしたクラス間の交流

●からだをつかった、歌や表現　ジェスチャーゲーム

●クラス全体→ペア→個人　の流れで会話

●ゲーム　身近な物を題材にしたクイズ

●どの活動も最初に教師同士が会話のモデルを見せること。

●帯活動に自己紹介の基礎を入れて、繰り返し練習し、自然に発話できる姿を目指した。

## 5. これまでの成果と課題、今後の取り組み

・引き続き、英語が好きで、”できる” という気持ちの子が増えた

・英語が苦手という先入観が芽生える前に、楽しい、好きという気持ちを育てることが出来た。

・いつもは発言に躊躇する子供も、たくさんのお友達の前で発表することに積極的であった。

・幼少連携　三年生への接続

・いろいろな児童のいいところ、苦手なところに寄り添っていきたい。ひとりひとりが輝ける場面をつくっていきたい。

（健康）